

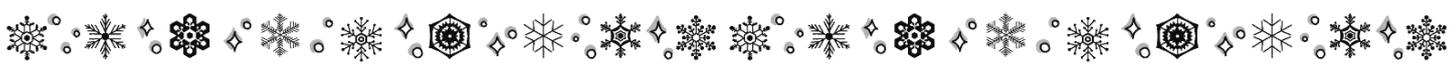
ほけんだより 1月

令和3年1月27日
横浜市立上白根中学校
保健室



1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言って、「新年始まったの3カ月は時間が過ぎるのが早い」という意味だそうです。昔の人は上手に例えるものです。今月は本当にあっという間でした。2、3月も油断するとそうなりそうですね（笑）。

緊急事態宣言とともに始まった新年。今回は、学校の「学びは止めない」ということで登校は今まで通りではありますが、中止になる行事もあれば部活動が週に4日から3日になるなど、注意しながら続いています。横浜市内はもちろん、区内の学校でも感染者は出ています。本校でも、いろいろな対策と準備をしていますので、今回は『上白根中学校の感染症対策』を紹介します。



手洗い ➡ 蛇口レバー

毎日の手洗いを続けてもらうために『蛇口をレバー』に変えました。直接指先でひねらなくても、手の甲や肘で止めることができ、感染予防にもなります。自動の水道に交換する予算はありませんでしたが、校内の必要な蛇口に取り付けました。技能員さん、ありがとうございます。

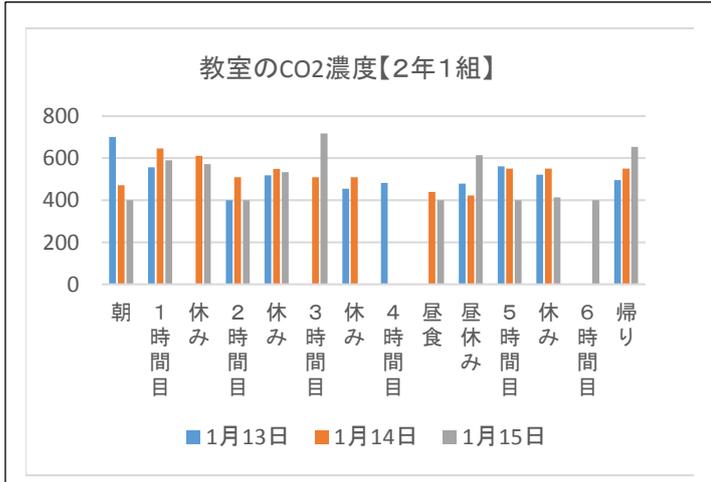


自動泡石けんも使用して、手洗いが積極的になることを願っています。

換気 ➡ CO2（二酸化炭素）濃度測定器

寒くなっても、感染予防のため換気を続ける必要があるのですが、目安が難しいとされています。「北海道大学の林教授は、CO2濃度と感染リスクの直接的な因果関係はわかっていないとした上で、『換気が悪い所では空気感染のように感染することはWHO（世界保健機構）も認めている。1,000ppmは最低限の条件としてクリアしてほしい』と話す」（1/24朝日新聞より抜粋）とあるように、測定できるCO2濃度を目安にすることにしました。

保健安全委員が3日間測定した結果、だいたいどのクラスも800ppm以下程度に抑えられていることが分かりました。これまで、年2回行われていた学校薬剤師による教室環境検査では、ときには3,000ppm近いこともあり「インフルエンザ予防のためにも、寒いけど窓を開けなさい!」と注意していました。学校保健安全法「学校環境衛生基準」では1,500ppm以下ですが、窓を閉め切りにすると本校の人数でも数値が上昇することは事実ですので、今年どれだけ気をつけているかが分かります。ただ、上の窓を開けたり、開け方を5cmくらいにおさえたり、気温が下がらないように気をつけています。必要以上に頑張らないためにも、CO2濃度測定は有意義でした。



過去の教室環境

	Aクラス			Bクラス		
	CO2濃度	気温	計測場所	CO2濃度	気温	計測場所
R3. 1月	862	17.9	1年1組	782	19.9	3年1組
R2. 7月	818	24.7	1年1組	710	24.9	3年2組
R2. 1月	1128	15.4	2年1組	1563	14.4	1年2組
R1. 9月	1120	25.5	1年2組	558	27.8	数学室 (エアコンなし)
H31. 1月	1012	17.2	1年1組	1085	17.6	3年1組
H30. 9月	886	25.8	英語室	1076	27	2年2組
H30. 1月	1648	17.6	パソコン室	2865	18.4	3年2組